

感震ブレーカーを知っていますか？

東日本大震災や阪神淡路大震災で発生した火災の**6割以上が電気に起因する火災**と言われています。大地震時の電気火災を防ぐには、揺れを感知して自動的に電気を止める「感震ブレーカー」の設置が効果的です。

感震ブレーカーとは？

地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に「配線用ブレーカー又は漏電用ブレーカー等」を遮断する器具をいいます。一般的なブレーカーは漏電には対応していますが、地震による火災対策には効力はありません。

感震ブレーカーの種類

①【分電盤タイプ】

分電盤に一定の震度を感知して電気を遮断する機能が付いたもの。

【基本型(感震センサー内蔵型)】

費用:5万~8万円程度(工事費含む)

購入方法:電気工事店に工事依頼

【後付型(感震センサー接続型)】

費用:2~4万円程度(工事費含む)

購入方法:電気工事店に工事依頼



②【コンセントタイプ】

コンセントに内蔵した感震センサーが揺れを感知し、そのコンセントからの電気を止めます。

個別のコンセントの電気を遮断することができるため、電気ストーブ等の火事になりやすい箇所に適しています。

費用：2万円程度

購入方法：インターネット等

※埋め込み型コンセントタイプについては、工事が必要になります。



③【簡易タイプ】

揺れによる重りの落下や感震センサーと連動したバネの作用により、分電盤のスイッチを操作し、住宅内全ての電気を止めます。フレーカーのスイッチに直接取り付けるもので、**工事の必要はありません**。一定の震度以上になった場合に、**おもりが落下しフレーカーを遮断するタイプ**や、地震の揺れを感知して内部にあるおもりが揺れてセンサーに感知し、**バンドがフレーカーを落とすタイプ**のものが 있습니다。

費用：2千円～4千円程度

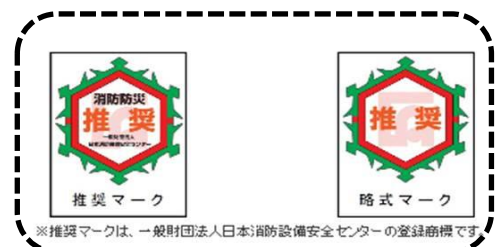
購入方法：ホームセンター及び家電量販店

※分電盤のタイプによっては、簡易タイプの取付けが出来ないものがあります。



【感震フレーカー等を設置するにあたっての注意事項】

- 感震ブレーカー等の設置状況によっては、各地の発表震度が設定作動震度より小さい場合でも作動したり、逆に大きい場合でも作動しなかったりする場合がありますので、感震ブレーカー等の設置の有無に関わらず、**地震発生後に自宅から避難する際にはフレーカーを切るようにしてください。**
- 夜間等に大規模な地震が発生し、感震ブレーカー等が作動した場合、避難時の照明が確保できない可能性がありますので、一般的な防災対策としても停電時に作動する**足元灯や懐中電灯などの照明器具**を常備してください。
- 生命の維持に直結するような**医療用機器を設置**している場合、平時から停電に対処できるようバッテリー等を備えてください。
- 右にあるような(一財)日本消防設備安全センターの登録した**推奨品のマーク**がついているものを購入するようにしてください。



ご不明な点等がございましたら、こちらまでお問い合わせください。

千葉市消防局予防部予防課 TEL：043-202-1613